

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300430		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	くつろぎ保養館仙台東 ユニット:A		
所在地	仙台市若林区長喜城字宮浦27-5		
自己評価作成日	令和3年2月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気の中入居様が安心して過ごせる場所となるようおひとりおひとりの状況を確認しながらケアサービスを提供しています。また、ご家族様とはいつでも気軽に相談できる環境を作り、様々なご意見ご要望を遠慮なく聞ける様関係作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2002年に開設した平屋造りの2ユニットで、仙台市の東部に位置し、東日本大震災後には地下鉄東西線沿線にショッピングセンターができるなど、急速に開発が進む地域にある。母体法人は「医療法人杏林会」で、病院と介護老人保健施設など多くの介護事業所を全国で運営している。事業所の隣にも介護老人保健施設があり研修や委員会など連携し取り組んでいる。法人理念と各ユニット理念を掲げ、毎月のユニット会議で理念について振り返り確認し、利用者に寄り添った支援ができるよう努めている。コロナ禍の中、法人の方針で家族との面会ができない状況が続いているが、毎月事業所に利用料を届ける際など来訪時には、家族に利用者の状態を伝えている。職員は、利用者が家族とも面会できず、外出も制限される中、寂しい気持ちにならないよう工夫している。昔話や家族との楽しい思い出話を聞き、時には方言を使い場を和ませている。管理者は職員から出されたハード面などの要望を本部に伝え、運営改善になるよう目指して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 くつろぎ保養館仙台東 ）「ユニット名 A 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念があり職員皆に周知・共有され日々の運営に生かされている。	各ユニットに、法人理念、ユニット理念を掲示し、毎月のユニット会議で振り返り確認している。常に利用者に寄り添った支援になるよう努めている。令和3年度に新たなユニット理念や方針を話し合うことにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会回覧板、市民センター便り、町内会長、民生委員、地域包括支援センターに行き来し地域の情報を得ている。	日常的に町内会長から情報を得ており、事業所の便りも届けている。地域とは、防災訓練への参加やボランティアの来所、事業所の敬老会に招待し交流をしていたが、コロナ禍のため中止した。現在、歩道の雪かきや散歩時に挨拶を交わすなど、地域の人との関りを大事にして取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症カフェに参加し、地域住民様の認知症について質問・疑問や施設内の様子等にお答えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。入居情報、行事・避難訓練、事故報告などをお伝えしている。参加者様から貴重なご意見・情報を頂ける場である。(休止中)	例年は、隔月に町内会長、民生委員、地域包括職員、両ユニットの家族が参加し開催していた。地域の情報など得たり、意見交換を行っていたが、コロナ禍のため昨年4月から開催を中止している。地域包括支援センターとは都度連絡を取り合い、地域などの情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	障害高齢課高齢者支援係、保護課、地域包括支援センターと連絡を取り合い相談・報告を行っている。	市から、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供があり、必要な報告・相談をしている。区役所とは「障害高齢課高齢者支援係」や「保護課」に必要時相談するなど連携している。「つなぐカフェ」の集まりには管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する老人保健施設の身体拘束委員会に参加している。定期的にレポートを提出させ研修としている。個室に鍵は無く、玄関の施錠は午後20時から7時までとしている。	隣接する介護老人保健施設と合同で、身体拘束廃止委員会を毎月行っており事業所から職員が2人参加している。得た情報はユニット会議で話し合い、情報共有している。外出要求の強い人には、見守りながら同行したり、話を聴き気分を変えるなど、対応している。玄関にはセンサーを使用し、20時から7時迄施錠している。安全に配慮しセンサーマットを使用している人もいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隣接する老人保健施設の虐待防止委員会に参加している。定期的にレポートを提出させ研修としている。「虐待」については常時意識を持って業務にあたるよう周知している。	隣接する介護老人保健施設の虐待防止委員会に参加している。職員は研修を兼ねケアを振り返りながら定期的にレポートを提出している。不適切な言葉遣いやケアについて職員間で注意し合い、ケアの質の向上に繋がるよう努めている。法人本部では職員の相談窓口を設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者支援係や保護課から権利擁護のパンフレット等を頂き職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には説明後に疑問点等の有無を確認しながら行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご意見、ご要望を頂ける関係作りに努めている。頂いたご意見は職員会議等で話しあい業務に反映している。	家族は毎月利用料金を事業所へ持参しており、来所時に意見・要望等を聞いている。家族から出された意見・要望は検討し、ケアや運営改善に反映している。法人の方針で面会を自粛しているため、来所時に利用者の状態を知らせている。家族からの電話を取り次いだり携帯電話で連絡を取り合っている人もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時に日々の業務について意見・提案を聞き業務に反映している。	職員の意見はユニットごとの会議で聞いている。各ユニットではリーダーを中心に話し合い検討し、合意した取り組みは職員間で情報共有しケアや運営改善に反映している。年1回、管理者と面談を行い職員からの意見や要望を聞いている。資格取得の際はシフトを調整したり、必要な研修に参加できるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価、人事考課を行い意識を高めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接している老人保健施設が実施している研修に参加したり、日々の業務中にも職員同士で意見交換を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会や地域の様々な会議に出席して情報交換を行い事業所のサービス向上を目指している。	年1回、市が主催するグループホーム協議会に参加し情報交換をしている。地域包括支援センターから、神経内科の医師による研修案内などがあり参加し、職員に周知し事業所のケアに生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	バックグラウンドを良く理解しご本人の望んでいることを把握、希望に沿えるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を丁寧にお聞きし信頼関係を築けるよう職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在どんな支援が必要か把握し職員で共有しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手を尊重する気持ちを忘れず、一緒にできることを継続し共同生活のなかで関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご本人を思う気持ちを大切に、寄り添いながら丁寧に支えていく関係を築いていく。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な思い出話を話題にして忘れない様に支援に努める。	コロナ禍のため、馴染みの人との面会や外出支援ができていない。家族や友人からの電話の取次ぎや携帯で連絡を取り合うなどの支援をしている。馴染みの美容院に家族が連れて行く人もいる。職員は利用者がストレスを溜めないよう、家族との楽しい思い出話や昔話などを聴きながら寄り添った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自主的に行える事や得意な事は一緒に行って頂き関わりを深めて頂けるように声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も必要時はその後の相談等について支援させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望に沿った生活が送れる様に支援している。困難な方にはご家族様にお聞きしたり職員間で話し合いながら支援している。	本人や家族から希望を聞き、思いを伝えるにくい人からは、表情や仕草、口の動き等から把握に努めている。把握した利用者の希望や情報は申し送りノートに記録し、情報共有しながら日常のケアに繋げている。利用者は食事の準備、配膳、後片付けや掃除、洗濯ものを干したり、畳んだりできる役割を担い、楽しみながら過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・ケアマネ様からの情報を共有しながら、ご本人の生活を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活状況を観察、生活リズムを把握するように努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に合わせて今後必要とされる課題について、ご本人・ご家族・職員等で話し合いを行い決定しケアプランを作成している。	本人から希望を聞き、3ヶ月ごとにユニット会議で話合っている。「ケアチェック要約表」を用い、必要なケアの内容箇所にチェックを入れ、問題点や解決すべき課題等を検討し、介護計画を見直している。家族からは来所時に希望を聞き、介護計画に生かし同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等、気付いた事は記録に記入し職員間で共有している。また、記録を基に次回のケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご要望やお身体の状況により訪問看護・訪問マッサージ等を利用頂いている。その他必要なサービスがあれば柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター・市民センター・町内会等からの地域情報を把握し災害時の避難場所の確認や近隣である農業園芸センターの話題を提供して四季の花々の話を楽しんでいる。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関を定期的に受診している。症状に変化があった場合は主治医の指示を伺い対処している。	協力医療機関がかかりつけ医の人は2週間毎に訪問診療を受けている。他のかかりつけ医を受診する場合は家族が付き添いを基本とし、事業所からバイタル表等の状態について情報提供書を渡し適切な診療が受けられるよう配慮している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には医療相談員と連絡をとりながら情報交換を行っている。定期的にご本人の様子をお聞きし退院に向けて支援している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況は常にご家族様にお伝えし、出来る限りの支援・対応を行っている。	入居時に看取りをしない事を伝えている。重度化や急変時には事業所ができる支援について家族に説明し、次に移れる施設が見つかるまで連携しながら支援している。家族が判断し特養に申し込んだり、敷地内にある介護老人保険施設に入所する人もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアル等を常に確認し、個別に救命研修に参加している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、昼間・夜間想定避難訓練を実施している。地域の消防団行事にも参加し協力依頼を行っている。	毎月、昼間・夜間想定で利用者も一緒に避難訓練を実施している。日頃から地域の消防団主催の行事にも参加し交流をしており、事業所の訓練時には助言を得ている。年2回、設備点検を行い、非常用の食料は1週間分備蓄している。法人で感染症対策を定め、利用者は外出禁止、職員も外出自粛し、検温の記録などは法人に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格、人格を尊重し気持ちに沿った声掛けを行っている。	接遇の研修を行っている。利用者の人格を尊重しその人に合った声掛けを行っている。方言など馴染みの言葉で会話をすることもある。呼び名は「さん」付で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人が希望を出せる様声掛けを行い、お気持ちに寄り添った対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースに合わせて希望されたお手伝いや趣味の時間を提供し安心して過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後やお昼寝後の身だしなみに気を付けている。衣類も色合いに気を配って提供している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事の準備(調理～盛り付け)あと片付けを行っている。また、同じ人にならないよう配慮している。	献立は隣の介護老人保健施設のメニューを活用し、食材は業者に発注している。月1回、寿司など利用者の好きなものを前出し楽しんでいる。誕生日にはケーキ、お正月はおせち料理を発注し皆で盛り付けをしながら楽しんでいる。利用者は食事の準備、下ごしらえから盛り付け、後片付けを役割を担って行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の食事量や好き嫌いを把握しバランスよく提供している。また、水分補給にも気を配って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず歯磨きの声掛けを行いひとりひとり見守りや介助を行っている。(定期的な訪問歯科受診:停止中)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄が行えるよう声掛け、誘導を行っている。出来る限り布パンツでいられるよう支援している。	排泄パターンを把握し、また、仕草や動作を見逃さず声掛けし、トイレで排泄ができるように支援している。夜間も、一人ひとりに合わせ時間を見て声掛け誘導し支援している。利用者の状態に合わせて下着やリハパンを使用している。便秘対策には医師処方の薬やセンナ茶を飲みやすくして対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランス良い食事と水分摂取に気を配るとともに、体を動かす体操やセンナ茶の提供を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一日おきに希望する時間に提供している。体調不良時には無理せず翌日に提供している。	入浴は利用者の希望を聞いている。一日おきに入る人が多く、湯は都度交換し、好みの湯温で気持ちよく入浴できるよう努めている。風呂好きな人が多く、その日の気分で2人で行ったり、家族が持参した好みの入浴剤やシャンプーを利用し楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や体調に合わせた休息がとれるように支援している。添い寝が必要な方がおり対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方薬内容を理解し変更時には連絡ノートに記入、情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなお手伝いの提供や、計算問題、塗り絵など各自自由に行える時間を提供している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺は水田や畑が多く四季の花々を見たり、近くの神社まで散歩を行っている。	コロナ禍のため法人の方針で外出が出来ていない。周辺は市民農園も多くあり、以前は散歩の折、農作業をする人が声をかけてくれた。春から秋にかけ綺麗な景色の中を散歩したりコーヒーを飲みに出かけていた。家族と美容院に出かける人もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からおこずかいとして一定額を預り施設で管理している。外出時に買い物された時にはお渡ししご自分で支払って頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から施設に電話頂いた時は本人に出て頂いています。また、面会中止中のいまはご本人が家族様に電話したい時も可能な限り支援しています。また、手紙のやり取りも支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に温度・湿度を管理し、西日の遮光を考えたり衛生的な生活環境を保つようにしています。また、季節感を感じて頂くよう飾りつけを行っています。	中庭を中心に回廊式になっており、利用者はゆっくりと歩いている。各ユニットには談話スペースが設けられており、利用者は気の合う人と会話を楽しんでいる。リビングは広くユニット毎に和風造り、洋風造りになっている。季節に合わせた貼り絵など、職員と一緒に手作りしている。日めくりカレンダー、時計が見やすいよう掛けられ、温・湿度は職員が管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と楽しくお話し出来るよう席の配置を行ったり、談話スペースを活用して頂いています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や想いのある物をお持ち頂き安心して暮らして頂くよう支援しています。	畳のある和室タイプと洋室タイプがあり、ベッド、エアコン、洗面台、物入れが備え付けられている。利用者は家族の写真、テレビ、整理ダンスなど馴染みの物を持ち込み、その人らしい部屋で居心地良く過ごしている。分かりやすい居室の入口に表札が掛けてある。掃除は職員と一緒にする人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの配置は居室(3室毎に)近くに1ヶ所ずつ配置されており、迷うことなく利用できる工夫がなされている。また、両ユニットとも周り廊下になっており一周でき歩行時に分かりやすい。居室の前には表札を置いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300430		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	くつろぎ保養館仙台東 ユニット:B		
所在地	仙台市若林区長喜城字宮浦27-5		
自己評価作成日	令和3年2月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温かい家庭的な雰囲気や毎日を過ごせるように馴染みの関係を大切にしています。ご家族との関係も気軽に相談やお話ができるような雰囲気作りを行い、ご家族様と一緒にご利用者様を支えるような関係を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2002年に開設した平屋造りの2ユニットで、仙台市の東部に位置し、東日本大震災後には地下鉄東西線沿線にショッピングセンターができるなど、急速に開発が進む地域にある。母体法人は「医療法人杏林会」で、病院と介護老人保健施設など多くの介護事業所を全国で運営している。事業所の隣にも介護老人保健施設があり研修や委員会など連携し取り組んでいる。法人理念と各ユニット理念を掲げ、毎月のユニット会議で理念について振り返り確認し、利用者に寄り添った支援ができるよう努めている。コロナ禍の中、法人の方針で家族との面会ができない状況が続いているが、毎月事業所に利用料を届ける際など来訪時には、家族に利用者の状態を伝えている。職員は、利用者が家族とも面会できず、外出も制限される中、寂しい気持ちにならないよう工夫している。昔話や家族との楽しい思い出話を聞き、時には方言を使い場を和ませている。管理者は職員から出されたハード面などの要望を本部に伝え、運営改善になるよう目指して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 くつろぎ保養館仙台東）「ユニット名 B」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に共有できるよう、目の届く所に掲示し理念の実践に取り組んでいる。	各ユニットに、法人理念、ユニット理念を掲示し、毎月のユニット会議で振り返り確認している。常に利用者寄りになった支援になるよう努めている。令和3年度に新たなユニット理念や方針を話し合うことにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会回覧板、市民センター便り、運営推進会議時、町内会長・民生委員・包括センターから地域の情報を得ている。積極的な朝晩の挨拶や施設前市道の歩道を除雪している。	日常的に町内会長から情報を得ており、事業所の便りも届けている。地域とは、防災訓練への参加やボランティアの来所、事業所の敬老会に招待し交流をしていたが、コロナ禍のため中止した。現在、歩道の雪かきや散歩時に挨拶を交わすなど、地域の人との関りを大事にして取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に近隣中学校の職場体験学習の受け入れを行いグループホームや認知症について理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。入居者情報・行事・事故報告などを行っている。参加者様から情報や助言を頂きながらサービスの向上を目指している。	例年は、隔月に町内会長、民生委員、地域包括職員、両ユニットの家族が参加し開催していた。地域の情報など得たり、意見交換を行っていたが、コロナ禍のため昨年4月から開催を中止している。地域包括支援センターとは都度連絡を取り合い、地域などの情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	障害高齢課・保護課と連絡を取り合い報告や相談を行っている。保護課職員の面会時には利用者様の状況を報告している。	市から、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供があり、必要な報告・相談をしている。区役所とは「障害高齢課高齢者支援係」や「保護課」に必要時相談するなど連携している。「つなぐカフェ」の集まりには管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	医師である理事長始め全職員が内容を正しく、詳しく理解し業務にあたっている。施設玄関の施錠は20時から7時までとしている。	隣接する介護老人保健施設と合同で、身体拘束廃止委員会を毎月行っており事業所から職員が2人参加している。得た情報はユニット会議で話し合い、情報共有している。外出要求の強い人には、見守りながら同行したり、話を聞き気分を変えるなど、対応している。玄関にはセンサーを使用し、20時から7時迄施錠している。安全に配慮しセンサーマットを使用している人もいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隣接の介護老人福祉施設で行う研修に参加し虐待防止について勉強を行っている。利用者様にあったケアを提供するよう取り組んでいる。	隣接する介護老人保健施設の虐待防止委員会に参加している。職員は研修を兼ねケアを振り返りながら定期的にレポートを提出している。不適切な言葉遣いやケアについて職員間で注意し合い、ケアの質の向上に繋がるよう努めている。法人本部では職員の相談窓口を設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	区役所・地域包括支援センター等に資料を頂き制度の概要を勉強し、入居相談時に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設として出来る事、出来ない事を明確に説明している。不明なことはその場でご理解頂けるよう詳しく説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご面会時にご家族様と積極的に関わりを持ち、要望や意見を頂きサービスに反映させている。	家族は毎月利用料金を事業所へ持参しており、来所時に意見・要望等を聞いている。家族から出された意見・要望は検討し、ケアや運営改善に反映している。法人の方針で面会を自粛しているため、来所時に利用者の状態を知らせている。家族からの電話を取り次いだり携帯電話で連絡を取り合っている人もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞く機会を設けサービス向上に繋がるものは業務に反映している。	職員の意見はユニットごとの会議で聞いている。各ユニットではリーダーを中心に話し合い検討し、合意した取り組みは職員間で情報共有しケアや運営改善に反映している。年1回、管理者と面談を行い職員からの意見や要望を聞いている。資格取得の際はシフトを調整したり、必要な研修に参加できるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・人事考課について年3回考課表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接の介護老人福祉施設でにおいて実施している研修会に参加し、個々のスキルアップを図っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、地域の交流会・会議に参加し見知を広めている。	年1回、市が主催するグループホーム協議会に参加し情報交換をしている。地域包括支援センターから、神経内科の医師による研修案内などがあり参加し、職員に周知し事業所のケアに生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の困っている事や要望等をお伺いし職員間で共有している。入居後はバックグラウンドを活用しながらご本人にとって安心して頂ける関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の要望や困っている事、ご家族様の思いを伺い職員間で共有する事で利用者様と一緒に支える為の関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込み時に困っている事や心配な事をお伺いしそれを把握しながら適切なケアやサービスを受ける事が出来る様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と顔馴染みの関係を大切にしご本人の能力に合わせて支援し思いを共感できる関係作りを築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来館時や電話にてご家族にご本人に生活の様子をお伝えしている。また、ご家族からの話しを聞き利用者様と共に支える関係作りを行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人からの電話のやり取りの支援を行っている。(コロナにて外出、面談が出来ない為会話の中でご本人の築いた家族・生まれ育った場所の事等をお聞きしている。	コロナ禍のため、馴染みの人との面会や外出支援ができていない。家族や友人からの電話の取次ぎや携帯で連絡を取り合うなどの支援をしている。馴染みの美容院に家族が連れて行く人もいる。職員は利用者がストレスを溜めないよう、家族との楽しい思い出話や昔話などを聴きながら寄り添った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの性格を把握し、利用者様同士で楽しく過ごせる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様より相談の問合せに応じたことがあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちや思いに寄り添い支援している。自分で伝えることが難しい方はご家族からお伺いしたり、本人の表情・しぐさから読み取って施設の中で役割や楽しみが持てるように支援している。	本人や家族から希望を聞き、思いを伝えるにくい人からは、表情や仕草、口の動き等から把握に努めている。把握した利用者の希望や情報は申し送りノートに記録し、情報共有しながら日常のケアに繋げている。利用者は食事の準備、配膳、後片付けや掃除、洗濯ものを干したり、畳んだりできる役割を担い、楽しみながら過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドを活用しながら日々の様子を観察して、今までの馴染みの生活に近い生活が送れる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録職員間で共有してそれぞれの生活リズムで過ごせるように支援している。また、残存能力を把握し出来ることは自分で行って頂くか、職員と一緒に出来る様に支援している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎、又は状態変化があった時にユニット職員と見直しをしている。また、ご本人やご家族様からもお話をおききし	本人から希望を聞き、3ヶ月ごとにユニット会議で話合っている。「ケアチェック要約表」を用い、必要なケアの内容箇所にチェックを入れ、問題点や解決すべき課題等を検討し、介護計画を見直している。家族からは来所時に希望を聞き、介護計画に生かし同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアプランに沿ったサービスを提供しその様子を記録に残し職員で共有している。また、その内容を次回のケアプラン作成時に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のその時の状況に合わせて必要なサービスを受けられるようにしている。介護保険以外のサービスもご家族に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や市民センター、町内会回覧板等で地域の情報を得ている。定期的に傾聴ボランティアが来館され馴染みの関係が築けている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望する医療機関を受診する事が出来ている。状態変化時は詳しく書いたお手紙をご家族に依頼し主治医との連携が保たれている。	協力医療機関がかかりつけ医の人は2週間毎に訪問診療を受けている。他のかかりつけ医を受診する場合は家族が付き添いを基本とし、事業所からバイタル表等の状態について情報提供書を渡し適切な診療が受けられるよう配慮している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護職員はいない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院相談員と連絡を取り合い情報収集している。入院中は面会に伺い利用者様の状態確認を行い、退院時にはご家族様の支援を行ってうる。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时や入居相談時に看取りをしない施設である事を説明している。また、重度化にともない施設で対応できる最大の支援と急変時の対応についてご家族様に説明している。	入居時に看取りをしない事を伝えている。重度化や急変時には事業所ができる支援について家族に説明し、次に移れる施設が見つかるまで連携しながら支援している。家族が判断し特養に申し込んだり、敷地内にある介護老人保険施設に入所する人もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できるように応急処置方法の資料を業務日誌に挟んでいる。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を実施している。毎回、反省点や改善点を職員間で話しあい安全迅速に避難できるように取り組んでいる。	毎月、昼間・夜間想定で利用者も一緒に避難訓練を実施している。日頃から地域の消防団主催の行事にも参加し交流をしており、事業所の訓練時には助言を得ている。年2回、設備点検を行い、非常用の食料は1週間分備蓄している。法人で感染症対策を定め、利用者は外出禁止、職員も外出自粛し、検温の記録などは法人に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を把握しその方に合わせた声掛けを行っている。利用者様によっては馴染みの言葉(なまり、方言等)で話しかけている。	接遇の研修を行っている。利用者の人格を尊重しその人に合った声掛けを行っている。方言など馴染みの言葉で会話をすることもある。呼び名は「さん」付で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの訴えや要望には傾聴し出来るだけ対応している。自分から訴えるのが難しい方は表情や仕草等からくみとったり、ご家族に伺ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを把握しご自分のペースで過ごせるようにしている。レク活動等の声掛けはするが、利用者様に参加するかお聞きして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる方は行って頂き、自分で選べない方はどちらが良いかお聞きしている。入居時には馴染みのある衣類をご持参して頂いている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。調理、配膳など会話をしながら行っている。	献立は隣の介護老人保健施設のメニューを活用し、食材は業者に発注している。月1回、寿司など利用者の好きなものを出前し楽しんでいる。誕生日にはケーキ、お正月はおせち料理を発注し皆で盛り付けをしながら楽しんでいる。利用者は食事の準備、下ごしらえから盛り付け、後片付けを役割を担って行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の利用者様に合わせた食事形態にし食べやすいようにセッティングして提供している。水分摂取が少ない方には飲み物の種類を替えたり声掛けを行っている。また、食事量のチェックや体重測定も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂いている。不十分な方、自分で行うのが難しい方は職員が介助している。義歯は夕食後に消毒(ポリデント)している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の排泄リズムを把握してトイレ誘導している。(日中・夜間帯とも)その方に合ったり下着やリハビリパンツ等を使用している。	排泄パターンを把握し、また、仕草や動作を見逃さず声掛けし、トイレで排泄ができるように支援している。夜間も、一人ひとりに合わせ時間を見て声掛け誘導し支援している。利用者の状態に合わせて下着やリハパンを使用している。便秘対策には医師処方薬やセンナ茶を飲みやすくして対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的には施設内の異動は歩いて頂いている。ユニットの作りが歩きやすく1周できるので運動の為何周か歩かれる利用者様もいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の都合、希望に合う様に配慮している。1人毎お湯を交換し好みの温度で入って頂いている。また、好みのシャンプー等がある方はそれを使用している。	入浴は利用者の希望を聞いている。一日おきに入る人が多く、湯は都度交換し、好みの湯温で気持ちよく入浴できるよう努めている。風呂好きな人が多く、その日の気分で2人で行ったり、家族が持参した好みの入浴剤やシャンプーを利用し楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムや体力、夜間帯の睡眠状況に合わせて休息を設けている。夜間帯に眠れない方は職員と一緒に過ごし傾聴や温かい飲み物を飲んで頂き安心して休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットに利用者様の薬情をファイル保管して情報を共有している。薬の変更時は申し送りや連絡ノートに記入し職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、好きな事を把握し楽しみのある生活が送れる様に支援している。毎月の行事は様々なレクリエーションを企画したりしていつもとは違う食事を提供している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設の周辺を散歩したり、近隣施設に車で出掛けたりしている。また、ご家族様と一緒に行きつけの美容院や買い物など楽しんで出かけられている。(現在コロナで中止)	コロナ禍のため法人の方針で外出が出来ていない。周辺は市民農園も多くあり、以前は散歩の折、農作業をする人が声をかけてくれた。春から秋にかけ綺麗な景色の中を散歩したりコーヒーを飲みに出かけていた。家族と美容院に出かける人もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいとして一定額を預り保管している。外出時に買い物時手渡して支払って頂く。(現在コロナで中止)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人からの電話のやり取り時に対応している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔保持に努め温度にも配慮している。玄関や廊下、食堂には季節ごとに装飾を飾っている。	中庭を中心に回廊式になっており、利用者はゆっくりと歩いている。各ユニットには談話スペースが設けられており、利用者は気の合う人と会話を楽しんでいる。リビングは広くユニット毎に和風造り、洋風造りになっている。季節に合わせた貼り絵など、職員と一緒に手作りしている。日めくりカレンダー、時計が見やすいよう掛けられ、温・湿度は職員が管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、気の合った方とゆっくり過ごせるよう談話スペースを設けている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に可能な限り馴染みの物を持参して頂いている。写真(アルバム)、テレビ等を持参頂き居心地の良い部屋作りを支援している。	畳のある和室タイプと洋室タイプがあり、ベッド、エアコン、洗面台、物入れが備え付けられている。利用者は家族の写真、テレビ、整理ダンスなど馴染みの物を持ち込み、その人らしい部屋で居心地良く過ごしている。分かりやすいよう居室の入口に表札が掛かっている。掃除は職員と一緒にする人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様それぞれの状態に合わせて声掛けや介助をしている。介助時も促したり、一緒に行う等残存機能を活かし出来る事を続けられる様に支援している。		